

歴史文化館ニュース 第12号

2014.12.13

「前畑秀子生誕100年展—その生涯から学ぶ—」から見てくること——

梶山歴史文化館館長 梶山 美恵子



梶山歴史文化館では、本学園卒業生で日本女性初のオリンピック金メダリストである前畑秀子の生誕100年を記念して、改めてその生涯から学ぶ機会にするために、2014年10月から2015年5月末まで企画展を開催しています。

前畑秀子が生まれたのは大正3年（1914）、郷里の和歌山県橋本市で豆腐屋の5人兄弟の一人として育ちました。実家の近くの紀ノ川で早くから水泳に慣れ親しみ、小学校時代には水泳の才能が開花し、日本新記録や汎太平洋女子オリンピックで優勝するなどの活躍をします。しかし実家の経済的事情で水泳の継続が困難になり、前畑は水泳を断念することを決めていました。

当時から運動を奨励していた梶山女学園には、国内の学校では例のない室内プールがあり、プールの初泳ぎには前畑を招待しました。前畑の才能を惜しんでいた橋本の小学校校長と梶山正式学園長との相談で、前畑は梶山に編入します。前畑は寮で学園長夫妻と生活を共にし、全面的な支援を受けながら屋内プールで練習に励み、ロサンゼルスオリンピックで銀メダル、ベルリンオリンピックでは金メダルという輝かしい成果を残しました。

ベルリンオリンピック大会後、世界は第2次世界大戦へと突入して行きます。日本も日中戦争から太平洋戦争へと踏み出します。ベルリン大会後、前畑は結婚しますがそれは日中戦争の始まった年で、すぐに夫は召集令状で戦争に駆りだされます。夫は無事帰還しますが、戦後になって前畑が45歳の時に亡くなりました。その後、前畑は梶山正式学園長の勧めで、夫（医師）の手伝いをしていた経験を生かして梶山女学園の医務室に勤務します。一方で後進の指導も熱心に行い、水泳教室など生涯スポーツの先駆けとして活躍しました。

69歳の時プールでコーチ中に、両親や夫と同じく自身も脳溢血で倒れます。しかしリハビリによって奇跡の復活をとげて水泳指導を再開しました。このリハビリの時のがんばりは、自著『前畑は2度がんばりました』の言葉通り、金メダルの時と勝るとも劣らないものでした。前畑秀子は努力で人生を泳ぎきって平成7年（1995）80年の生涯を閉じました。

激動の時代に、自身もまた激動の生涯を送った前畑秀子。今回の展示では今まであまり紹介されていなかったその全生涯の豊富な資料から、前畑秀子がそれぞれの時代に体験したことや出会った人々が、その生涯とどのように関わったかを知っていただけます。またとない機会になりますので、是非ご来館ください。

【前畑秀子生誕100年、特別座談会・講演会―時代を超えた人の繋がり―】



平成26年9月25日（土）、午前10時30分から正午まで星が丘キャンパスにある大学会館3階の大会議室において、特別座談会・講演会を開催しました。

当日は、午前9時から栢山女学園中・高の生徒をはじめ、同窓会関係者、学園関係者、一般参加者等を含め、97名の方が会場に集られ、会場は熱気に包まれました。

開催に先立ち、愛知水泳連盟会長の箕輪田さんからご挨拶をいただきました。続いて前畑秀子の出身地である和歌山県橋本市の橋本まちかど博物館が所蔵している前畑秀子に関する資料目録が、配付

資料として提供されたことから、同博物館館長の古西さんをご紹介させていただきました。

特別座談会では、前畑秀子と1年ほど寄宿舎で寝食をともにされた中川佐和子（旧姓：岩橋）さん、前畑秀子のご遺族であり栢山女学園中・高水泳部のOGでもある兵藤尚子さん、昭和35年のローマオリンピックに水泳選手として出場された和田君子（旧姓：江坂）さんを始め、吉川友江（旧姓：羽鎌田）さん、福永翠（旧姓：浜中）さんなど水泳部のOG、前畑秀子が栢山女学園中・高の保健室職員兼水泳コーチとして勤務していた時期に教員として勤務をされていた加藤元子さん、そして、水泳部の現役3名が登壇し、座談会を行いました。座談会では、登壇者の皆さんに前畑秀子に関する思い出話や感想を熱く語っていただきました。

前畑秀子から連綿と続く、栢山女学園の水泳部のお話を伺い、時代を超えた人の繋がりや、新しい人材を輩出し、未来を築いていく原動力になっているということや、座談会から感じることができました。

後半は、東海学園大学スポーツ健康科学部助教で、栢山女学園大学人間関係学部の非常勤講師もされており、「栢山女学校校友会誌『糸菊』（1924-1960）にみる前畑秀子」の原著論文で高い評価を受けられた木村華織さんに前畑秀子についての講演を行っていただきました。

講演では、栢山女学園の水泳部の歴史とともにあった前畑秀子の活躍ぶりをお話されながら、大変興味深い内容の講演となりました。

特別座談会・講演会終了後、希望者を対象に栢山歴史文化館の見学を実施し、前畑秀子生誕100年展を熱心に見ていただきました。



前畑秀子展、座談会・講演会の感想

今回、前畑秀子展、座談会・講演会をご覧いただいた方々から、以下のように多くの感想をいただきました。

- ・前畑さんの「一に努力、二に努力、三また努力」という言葉が一番印象に残っています。前畑さんの金メダルは、前畑さんの並外れた努力があったからこそだと思ひ、スポーツをしている自分にとっても共通するところがあると思ひました。努力は裏切らないという言葉は本当なんだと改めて感じ、とても刺激になりました。
- ・自分の母校に尊敬すべき先輩がいると深く感じました。今まではオリンピックで女性で初めて金メダルを獲得したということしか知らなかった自分が恥ずかしく思ひてきました。これから前畑さんの精神論に習うことだけではなく、自分を育ててくれている周りの環境についても一度見つめ直していきたくひです。
- ・今と比べたら決して良いとは思ひない環境で誰よりも自分が気弱になる闘病生活で誰よりも自分に厳しく律してきた精神に驚きました。また、それを作り上げた幾つもの決意、粘り強さのルーツとして栢山女学園の初代校長先生の影響があると知り、今の環境というものを改めて考えさせられました。



- ・輝かしい功績だけでなく、それを成し遂げるための毎日の努力。また、その後生涯での脳溢血との闘いなど、精神面ですばらしく強い人だったということを改めて知りました。30年後へのメッセージでの成し遂げる精神に変わりはないという言葉にとっても感動を受けました。
- ・前畑さんの「私は二度がんばりました」という言葉が心に残りました。水上競技放送レコードを聴いて、前畑さんが泳いでいる姿や、前畑さんだけでなく、その周りの人たちの必死さもすごく伝わってきました。そして、脳溢血で倒れてしまったあとも、「水泳が好き。泳ぎたい。」という一心でリハビリを頑張って、また水泳界に戻ってきて前畑さんは本当にすごい人でかっこいいと思いました。
- ・戦争によって暗いイメージのある時代の中で、それを感じさせないくらいの前畑さんの生き様は本当にすばらしいと思いました。水泳だけでなく、「人格も世界一」というのが心に残りました。自分はバレー部だけれどすごく重なって、バレーだけになってはいけないと思いました。

【梶小生、調べた自校史を「小学校説明会」で発表】

(梶山女学園大学附属小学校・教諭 古田小百合)

梶山女学園大学附属小学校の6年生が、総合的な学習の時間に自校史について調べ、プレゼンテーションソフトを利用して1枚のスライドにまとめました。

授業では、児童がテーマを出し合い、各クラスで話し合って担当を決めて調べ学習を始めました。主に「60年のあゆみ」を参考にまとめていきましたが、中には校長先生に質問をしに行った子や、インターネットを活用した子、20年や30年のあゆみを読んでまとめていた子など、様々な手段を使って積極的に調べ学習を進めることができました。

子供たちは、6年間過ごしてきた梶山女学園大学附属小学校の歴史の深さを様々な方法で感じ取り、興味を持つことができたのではないのでしょうか。



児童感想

- ・梶山小学校は、公立の小学校とは違い、様々な行事があって本当に楽しい学校なんだと改めて感じました。梶山小学校に入れて本当に良かったな、と思いました。
- ・私は「人間になろう」の意味を調べました。私はこの梶山の方針の意味を調べたことで、自分はこうしないといけないんだという目標が分かりました。
- ・梶山小学校を全く知らない人に分かりやすく説明しなければいけないので、少し難しかった。人々が興味を引くような記事になるように工夫できてよかった。
- ・私たちが6年間通っている梶山小学校には、こんなに深い歴史があったと知り、おどろいた。約60年前に逆のぼり、開校当初の梶山小学校を知ることができてとても楽しかったです。

【「前畑秀子生誕100年展」が新聞記事にて紹介されました！】

「前畑秀子生誕100年展」の紹介が、毎日新聞、朝日新聞、中日新聞、それぞれの新聞記事にて紹介されました。

10月23日（木）の毎日新聞に、「前畑秀子生誕100年展」の紹介が掲載されました。記事には、平成26年10月25日（土）開催の「前畑秀子生誕100年、特別記念座談会・講演会」の紹介のほか、前畑秀子展の展示を熱心に見る来館者の様子が写真にて紹介されました。記事では前畑秀子の歩んだ激動の人生についても触れており、今回の企画展を通して、戦時中の激動の時代に水泳を愛し、その普及に打ち込んだ前畑秀子の人生を知ってほしい、という歴史文化館館長の思いも紹介されました。

毎日新聞提供

（2014年10月23日（木）朝刊）

また、遺族寄贈の前畑秀子の日記が本校にて初公開されたことが、10月11日（土）の毎日新聞の記事にて掲載されました。実物の前畑秀子自筆の日記の一部が写真にて紹介されています。また、日記から抜粋された、ベルリンオリンピック当日に書かれた前畑秀子の文章もここでは紹介されました。レース前夜は眠れず、朝食も喉を通らず「死すとも勝ちたい」と神に願ったこと、そして、優勝した直後はうれしさが胸いっぱいこみ上げてきて泣けて泣けて仕方なかったという、前畑秀子の当時の生の心境が載せられています。

当時の前畑が感じていた、日本全国民からよせられた期待に対するプレッシャー、そして彼女が背負っていたものがいかに大きかったかが、うかがえます。

記事の下に掲載されている写真は、実際のベルリンオリンピックにて、前畑とドイツのマルタ・ゲネンゲル選手がデッドヒートを繰り広げている場面です。

毎日新聞提供

（2014年10月11日（土）夕刊）





この記事・写真は、中日新聞社の許諾を得て、転載
(2014年10月23日(木) 朝刊)

中日新聞では「前畑秀子生誕100年展」について10月23日(木)の記事にて紹介されました。

写真では、多くの来館者の方が展示を熱心に見ている様子が載せられており、展示室の様子や雰囲気が伝わってきます。また、今回の前畑秀子展の展示では、前畑の人生を「小学校時代」「相山時代」「ロサンゼルスオリンピック時代」「ベルリンオリンピック時代」「結婚と家庭・生涯スポーツ」「病氣克服時代」と、おおまかに時代分けをして展示を行っていることが紹介されており、展示室の内容についての説明も載せられました。

また、展示物の一つに、当時のベルリンオリンピック決勝戦の実況放送が録音されているレコードがあり、展示室では実際に、レコードから録音した河西アナウンサーによる名放送「前畑がんばれ！」を流していることも、今回の記事にて紹介されました。

記事の最後には、今回の企画展を見ることで、前畑秀子がどのような時代にどのような人々とつながってきたのかを知り、そこからさまざまなことを学んでほしいという、歴史文化館館長の思いが載せられました。

朝日新聞では、11月11日(火)に「前畑秀子生誕100年展」の紹介についての記事が掲載されました。

展示資料については、1936年ベルリンオリンピックの金メダル(複製)の他、1979年に前畑秀子が未来の子供達に宛てた直筆のメッセージ(2009年にタイムカプセルが開封された)が、写真にて紹介されました。また、前畑と同じ学校の水泳部で、ともに同じ寮で生活をしたことのある中川佐和子さんが展示室に訪れており、その時に中川さんに語っていただいた当時の思い出話についても記事にて紹介されました。

この記事・写真は、朝日新聞社の許諾を得て、転載(2014年11月11日(火) 朝刊)



【相大に「歴史研究会」誕生、大学で初企画】

10月18日（土）の大学祭初日に、歴史研究会（大学の同好会）の自主企画により、相山歴史文化館を会場に、相山女学園の歴史クイズラリーを開催しました。

「歴史研究会」代表・文化情報学部 西原真美

当企画は、知人である学芸員の先生からの、ひょんな一言から始まりました。「相山歴史文化館に、もっと来館者が増えればいいのになあ」。この言葉を受け、我々歴史研究会が試行錯誤の末、最初にワークショップなるものを催そうと企画しました。しかし、歴史研究会は、公認になったばかりなので経験浅く、シンプルで人が来やすいイベントをしようと考えました。そこで、私たちはクイズラリーを考案しました。また、単なるクイズラリーではつまらないですから、景品を付けて、ということで、新しくメンバーに加わった生活環境デザイン学科の学生が、来館者にビーズを提供しようと提案してくれました。もともと我々は文化情報学部の学生ばかりでしたので、彼女たちの提案は新鮮なものでした。この企画で決定し、当日は73名もの人々が来館してくださり、大きな成果を得ることが出来ました。

来館されたほとんどの人々が、我々の用意したクイズを熱心に解いてくださり、相山歴史文化館との連携も上手くいったと思います。この経験を生かし、来年はもっと良い企画が練れるように頑張りたいと思います。

【皇太子殿下ご訪問コーナーを設置】

7月10日、第50回献血運動推進全国大会にご出席のため、名古屋へお出でになられた皇太子さまは、相山女学園高等学校に来校され、生徒が発表する「血液献血セミナー」を視察されました。

この時、皇太子さまがお使いになられたお茶のセットなどを相山歴史文化館歴史展示室の一角に展示し、皇太子殿下ご訪問コーナーとして設置しました。

【寄贈品紹介】



○学校参観面談日ポスター（清水和恵氏寄贈）

○手書きの卒業生へのアルバム／昭和31年度（池田寿子氏寄贈）

○相山高等女学校時代の絵ハガキ13点（澤田光子氏寄贈）

○新聞（新愛知、名古屋毎日、東京日日、読売報知）／昭和7年～昭和19年8点（岡田昌弘氏寄贈）

○歴史写真（雑誌）／歴史写真会発行冊子（昭和7年8、9、10月号、昭和11年6、7、8月号）、相山女子学園運動会絵ハガキ（昭和5年以前のもの）8点（村瀬輝恭氏寄贈）

○相山正式・今子遺品類（財布、預金通帳、布袋等）7点（相山正弘氏寄贈）

【編集後記】

今回の「前畑秀子生誕100年展」では、新聞記事を見て見学に訪れてくださる来館者の方が多く、大変好評となっております。企画展は、来年の5月まで開催する予定となっておりますので、是非より多くの方に前畑秀子について知っていただきたいと思います。

歴史文化館ニュース 第12号

発行日 2014年（平成26年）12月13日

編集・発行 相山歴史文化館

名古屋市千種区星が丘元町17番3号

TEL 052（781）1186（代）

052（781）4590（直）

編集担当者 相山美恵子 村瀬輝恭 大喜多優香